

清古集才

612

シ

4

0

150 cm

10

3

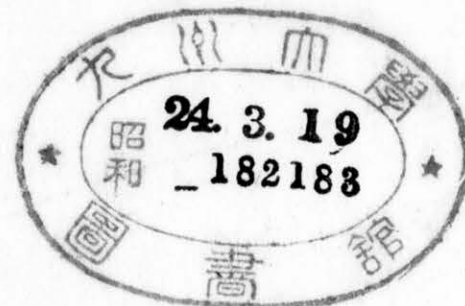
SEKISUI JUSHI

20

612

シ

4



續世継第廿

ゆらなまのよき

菰あみ

梅のよき

ゆらなまのよき

雲のよき

しらすけのよき

しらすけのよき

しらすけのよき

しらすけのよき

信のくはら月
字はうきせ

ゆるなう

よはうに入道あかたのほらう
うんとそのほらうにゆふう
きほらうう(い)きききききき
あいたうきききききききき
あいたうきききききききき
なり入道あかたのほらう
大入道あかたのほらう
まことなり一系流に一系流に
代の開はよきききききき

志保く「わろけをせよ」美事や年十二
月廿日六十二でくれを銘をのこ君
をんなをさみあさるなりゆきをんな
さき才一入と上东门院と一て後一条
院は朱雀院二代の御門入の母なり
けさ。才二入御娘いと系院中女奸
みと一さ湯明門院の御母なり才六
後一条院の中宮成みとも二条院と
は二条院の御母なり才六の才
の才は冷泉院の御母なり

姫子と一これこれの御母なり
とつたりたことさみたらしを師い
のありさたことつさい二条殿又れ
いささなり堀川乃石のたとも因院
のまふたまを勤寺れむまのつこと
乃臣部つけいさつさふま入のり
のさみさなりこの御もさ小女君
ゆきところたささむさりい小一
院とてまふまの院さしたま
一法師はまふまのつりさつさ

よりいちゆいのたねのさへい
なりひーもとほゆりえい
いあつてさなりー

上东门院し一系院の后二代ゆいの
母なりゆき橘氏さふゆふり
ぬけさふ妍こみとり女院とねり
いふふたふす寛弘元年十
一月内侍のさなりゆきやてふ位下
せりき終十二月よ位はつせ終七
正月よ二位のさなりゆき同年二月

よ一系院来ふとりー女院のさなり
終位よりせ終寛弘八年八月
女院の宣旨より終長和元年二月
十日中ふより終万暦元年九月十日
終寛仁二年十月十六日終名
あり終万暦元年九月十日終
いふありてやてふ日くさり
終し橘氏殿のさなり終家
のゆき終けりふのさなりあり
終すて

とてしつゝのねつゝまうとを
とつゝあつゝのせなすれそ
けつゝのつゝふと系院の娘ふたつ
ゆゝとつゝや頼^{たの}みの内親王とては安
三年一ふえとて万寿元年と月ちと
日後朱雀院の東宮とてしとれま
らせ給ふとて十五とたりと
少門位といふとて中宮とては
給ふとてあつゝ中宮とては
とのつゝとてはつゝ後と系院の

は母陽明門院とてはつゝのつゝなりこの
女院のつゝふと女宮とてはつゝ
良子親王とて長元九年十二月廿八日
薨^きつゝとてはつゝとてはつゝ
ふとのつゝとてはつゝとてはつゝ
つゝの内親王とてはつゝとてはつゝ
つゝとてはつゝとてはつゝとてはつゝ
とてはつゝとてはつゝとてはつゝ
とてはつゝとてはつゝとてはつゝ
とてはつゝとてはつゝとてはつゝ
とてはつゝとてはつゝとてはつゝ

よなり給へば一条院位の御時女御
まづ行寛仁二年十月。后は之給也
元九年。いづれなり給と給同九月。
くまを給ふと御門にや月。せさ
せらと給。九月。これと給。一と
ぬ。一と。いづれ。一と。ゆ。て。
り。り。り。り。侍候。り。り。り。
を。の。な。い。ま。り。り。一。一。一。
り。り。り。

し。が。あ。つ。な。い。の。い。や。ね。

このふとて。い。は。い。ら。り。
と。ま。い。え。り。この。后。り。り。り。
る。ま。り。り。り。り。り。り。二。系
院。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
元年七月。中。あ。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。

りきい大輔の位

あいのねのなまきりさへくさる

さへくさるなまきりさへくさる

さへくさるなまきりさへくさる

さへくさるなまきりさへくさる

聲香子内親王とて又れたる御
小たへくさるなまきりさへくさる
さへくさるなまきりさへくさる

十一月後と系院書文はたへくさる
女御はさへくさるなまきりさへくさる
年六月廿二日宮内省より
五年四月廿一日御
院よりさへくさるなまきりさへくさる
たへくさるなまきりさへくさる
さへくさるなまきりさへくさる
さへくさるなまきりさへくさる
後冷泉院よりさへくさるなまきりさへくさる
の四つわてはさへくさる

梅のつゆい

開白前大政大臣よりみちへにわたりて
成寺入道おろさなむのち節はたふ
まふのちぬらやぬらよあふ一後一位源倫
みく一一条の后大長母さのふりた
のふじよめたりぬらふつさよめと一け
宇治のあかきなむ大長乃位よ五十二
ゆゑたり一ゆゑ一さば二条院の御をら
りてゆゑ一廿六より寛仁元年二月
十六日移政よなむせ終るの十九日牛車

の宣告ふせ終るやて廿二日大長
之人のふもいせ終宣告ふゆりゆ
んしなむなむせ終るは開白と一
さ後朱雀院位よいせ終るをさ
なむら一長元九年二月廿九日
小開白せりて終るは政大臣よあせ
終ゆゑ一七十一よりまゐる終一依
暦之年七月七日宇治平太院より
きて准之后の宣告ふゆりゆ
一のちけのなむのちくふと

新りたるも酒通方。終る世終る
十二月は南のゆつり終るのせ終る
まゝ肉^{ナイル}覧の職事^{シヤウジ}よりおしる
たなりしよりさ後之衆流くわう
いせ終てそう一此の時ふようぬこ
とくみく字信よこのめれを終て延
久巳年正月廿九日ゆりむらりを終
て同六年二月二日八十とあくらせさせ
終るまきのたきうなともくよ
ゆき終るふきを信めまそ中より場

川のたなとふ梅のふれりてなり
新しそ

あゝまゝなりきなりけり梅の花
けさちなりきなりけり

とゆを新あつとやうくもとの世ま
てとゆりゆりこのなとのゆりち
郎やとたふる思ふとと一十
ハてとせ新めさし母とふあき置定
の娘なりまのけの岡白一の人のを帝
さみあくとくうなり新めとと

とゆを新あつとやうくもとの世ま
てとゆりゆりこのなとのゆりち
郎やとたふる思ふとと一十
ハてとせ新めさし母とふあき置定
の娘なりまのけの岡白一の人のを帝
さみあくとくうなり新めとと

[illegible][illegible]

くさくさなりー湯洗うあて
平太助ーくさなりぬーみよいふ
みらさつらてーくさまたー
もゆいーくさーくさくさ
らたのーくさーくさなりきり大僧さ
もくくくさーくさくさ佛母僧二位の
宇治殿。僧部のゆたうさくさ
りもせきくさあひさておろけ
なり。唐さくさーくさくさくさ
まーくさくさくさくさくさくさ

御あひさくさなりきりくさくさ
けりさくさくさくさくさくさ
なりふさの店さくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
ゆきんさくさくさくさくさくさ
らくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさ



なれしにきあつてはさあ
うきうきうきやと喜ぶ民衆はた
かみの中ねたしめてさきかへ
しうふち持あがもてふね
けりふのそとさちいふあて
まらうしなうけうわさふ
さうしてふりふりて
ふのさふさふさふさふ
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう

さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう

雲のく

雲のくさたう中娘は大殿の
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう

ことしは天長六年ゆゑふりて
 いづれはすまのまゝあつて昔の如
 しと云ふところのまゝなりとの
 ろなりと思ひてはけふなむこのま
 じつさへもえさるるころを世のあさ
 かと見えぬ

祢にふくむとならふあさひの
ひかりをめぐらしかるを

と情をこゝやうに告げぬまゝこの
佛娘は糸の交はたしぬすは冷泉

[illegible]

一 甲子改暦乙卯年四月十七日後分泉
院の御付のより教の御ゆつりふよ
うて同由になつて終る七十とひい
ふやうのまんりくになつてゐるのを
終るはらふ院の代のよりりの開白
やうになつて四月の十九日はふ
せ終る延久二年乙卯月乙酉日
のやうに終る保二年九月廿五日ふ
はらふやうになつてハナハナの
うになつてふすけたとせあつた

よりふうになつて甲子改暦
なつてふうになつて甲子改暦
より終る乙卯年四月十七日後分泉
院の御付のより教の御ゆつりふよ
うて同由になつて終る七十とひい
ふやうのまんりくになつてゐるのを
終るはらふ院の代のよりりの開白
やうになつて四月の十九日はふ
せ終る延久二年乙卯月乙酉日
のやうに終る保二年九月廿五日ふ
はらふやうになつてハナハナの
うになつてふすけたとせあつた

そのころいふ半臂と云はれり
けしきもぬせ給に宮路ありて
てそこののころいふお
ういより半臂と云はれり
日記よくなりける半臂のころ
りとさゆり人らあつたを
るるなるやうなところであつた
は徳通のわが宮路殿よまゐりて
つゝめくもすゝめくもあつて
まゐると花人のころいふ

てくちをうもむるくちの衣冠を
たふはゆるゆるにうしむるに
くちをうもむるくちの衣冠を
くちをうもむるくちの衣冠を
くちをうもむるくちの衣冠を
くちをうもむるくちの衣冠を
くちをうもむるくちの衣冠を
くちをうもむるくちの衣冠を

くや車にらたててぬきあそび
くぬみなりてあそびなしてなんこまり
けつとそとくうしそいぬいそん
ぬらうしうらてゐ殿とふもらての
ア終ぬとやあそびやのたのたとい
ねとまの大地玄苑人のみそそい
ねけつすあしてうらねあけけり
ううれねとそとち一清坐のあ
いそなりあつたりとならねけつと
鳥羽のたうらわのあけけりや殿と人

のいしねくさうかひいしとん
きけつけりうらねあそびとん
さうえぬのいなりとそいぬい
くそまもつとく一し清坐と
く清坐とそ殿とのたのたの
よぬとれねなりとそいそつと
きとくつなりとけりそい清つ
ぬ殿とたり一し一て業平の中
将とそまぬやねくつとんた
らきけつとけりけりそいそ

くそぢぢらよらうまゆせよはくー
むいのもよあまのきうなふー
ふ人の花なりけりあんのまふ
くのうてきうらんのかまふ
らんかきれけりあふふ
けけきの通のわーはくありき
まふきくやみらのきく
細くふとにきくきく
世中きくきく
はくきくきく

んよきくきく
とあきれけり

くきのあきけり
きくきくきく

とくきりきく
きてきくきく
のきくきく

きくきく

て糸の大細きのきく
きくきくきく

ていふ井の大納言のふあしきわたりは
—さういふ人よふんか—ゆ—ま
うはなふの井つりてよとえもな
そあしきれけつろりた—ゆ—
けつろりたふしあちきんうは殿のい
とよた—けつろりたふしあちきん
あ—てんろりていけり—
けつろりたふしあちきんうは殿のい
とよた—けつろりたふしあちきん
あ—てんろりていけり—
けつろりたふしあちきんうは殿のい
とよた—けつろりたふしあちきん
あ—てんろりていけり—

—たひいあ—人殿のさういふ人
—二条のついでゆめ—ははは
信基とてたり—ゆ—さあまのちのち
さ信基とてたり—ゆ—さあまのちのち
—さういふ人よふんか—ゆ—ま
うはなふの井つりてよとえもな
そあしきれけつろりた—ゆ—
けつろりたふしあちきんうは殿のい
とよた—けつろりたふしあちきん
あ—てんろりていけり—
けつろりたふしあちきんうは殿のい
とよた—けつろりたふしあちきん
あ—てんろりていけり—

うらもせぬはるよあつたつゆあふ
いづれいつたつゆのこころ

あつたつてさあめつたつゆあふ
うらもつたつてつゆあふ
とつたつてつゆあふはるよあふ
たつたつてつゆあふはるよあふ
らめたつてつゆあふはるよあふ

うらもつたつて

大ニ系々の女あつたつたつたの女あつた
たつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつた
うらもつたつたつたつたつたつた

ねと思ひつてのうたの歌はひきき
なを金もいらせ給ふ人となひて
の歌もいふてつづくものやうり
きん銭もいふてみゆいさなうそ
なをいふもいふもいふもいふも
アウキやうんもいふもいふも
いの道の歌もいふもいふも
は花堂よと味給ふやふもいふも
給ふ庭のういふ人のあつても
もまするつて十具うりまひる

なをいふて神木もいふもいふ
アウキやうりつづくものやうり
らんもいふもいふもいふも
とまうていふもいふもいふも
は給ふもいふもいふもいふも
はを給ていふもいふもいふも
は給ていふもいふもいふも
うりいふもいふもいふも
そまうりいふもいふもいふも
ままもいふもいふもいふも

[illegible]

の國とわが方の養もてまつらせ給
 へりけきくまつりつゝうづたそに女
 うれしきものもみれとみゆきけき
 こえけり遊力よあつげぬいけりと
 そきけりそのとけりのみらぬよと
 とる殿上人いふふしれきとつた
 一ふあきとけきけりさきとものうみ
 なといふものなりてと味なきなり僧
 とすこふすふくなりなりとてねい
 一ゆ一けりけりけりけりけりけり

しるゝと桑のまゝひらけりなり
大匠の位より十二年たりし
義保二年九月内覧の宣旨より
るまひて十月三日の長考より
也終十五日ふ同いなり也終
二十日や白川院の御時より大ねの
終ひて御時よりなり也終
牛車つゝ宣旨より也終義暦二年
十月より大政大臣のよりなり終
つゝ宣旨より也終川院よりなり也

終一日終政より也終同日や年より
終り終るなりなり終寛治元年十
二月より大政大臣よりなり終同日や年終政
の御時よりなり也終同日や年終政
終つゝなりなり終同日や年終政
と終保元年より同日の御時よりなり
終ひてなりなり終同日や年終政
終ひてなりなり終同日の宣旨よりなり
康和二年正月九日よりなりなり終
二月十日よりなりなり終同日や年終政

[illegible]

とせらるるを来てえりし

このころ月

この大蔵のとき、
むすめ、
一、
ふい、
た、
院、
あ、
川、

と一傳

宇治のうせ

は二条殿のゆつさくらくゆけと
てたりゆ入道なまむらした殿
ゆよまよふせ終とまえ終さゆ
母ちまふたのねのゆむじりなり
このたのゆふいぬさのまをえ
延一康和元年同九月廿八日内侍人の
宣旨より終さゆ一廿二同年
七月十七日たはよなせ終さ大將

とうとけりを終りて天永二年十
二月十日たはたはなり終さ
めいりてせはなつあま白川の
つゆてきなりゆいゆひあつり
終るゆとせ終りつあま川
あまいのゆのうさひてはよ
なうてななりゆあまをせ終さ
あまのゆのうさひてはよ
はなななりゆのうさひて
はなななりゆのうさひて

しるふさうせぬふりひらきくら木
くたしんをあらうるふれあ
しるせぬふれあをいふあふい
ぬふあふいふれあふいふい
やふふふふふふふふふふふ
十一月十二日やあふふふふふ
流ふりて堀川のたふふふふ
ぬふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
院ふせらふふふ鳥羽院世ふふ

一付ふふふふふふふふふ
賢門院ふふふふふふふ
流やふふふふふふふふふ
信ふたりふふふふふふふ
ゆふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

さうえ終人たりゆーさう人の待
賢門流をいやないあてうりゆて
流もいひよあてりなうまこえ
はさ終ーなりま白りこのあさゆー
さうもくせだろーけうかなろーを
盲たろくいゆさうまれとせろ
人いさちんゆさゆーてーろりしー
ろりの流のろりふかぬーろりー
たろーけうとろりふさろんーろりさ
せ終ーいよゆさもいさうゆさなり

きろゆー人またらせろろーろめ
女流とふいいてろろーさうんい
まろあねたろーのろいゆい
いさーろろもろろさ家よまろ
ろゆろーいゆろろろろいれ
いさろふさろんーしきろろろ
ろろろろろろろろろろろろろ
いさろふいさろ終まろのゆさ
めろろ家もなろいあなろー
ゆーさ代ろの国ゆーろろろー

月夜にうさぎを飼ふ——
 とうとうこえー人いふふくひなれ所い
 ふい人いふんたふうり白川殿も
 たふー所はうううーめーやたー
 きんぼろ女座のうーぬおなこー
 よううつさる女はななるうーてた
 もとそこえこえらこえーいこー人
 みくは怪あつたのこ井寺僧都のさ
 みやういゆーていーふううぬ
 月夜はあつたんこえこえらううの白川

殿とて祇園はたゞせーのゆゑりもて
らるゝとて祇園はたゞせーのゆゑりもて
ふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
とてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
なとてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
つとてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
人とてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
人とてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
人とてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて
人とてふとて平氏もたゞせーのゆゑりもて

十年つりいぬのひのしほのひにまで
のちうもくまのうめをけりしした
いいたしむのうめをなんの
まけんとされい加階いゆるまを
かきふて那那の中ゆき大原う
あけゆきういふてあまを
らまけりなまのうめをけりし
まよのまにけりし二条のまにけり
てまけりしうめをけりし
の中あつてまが階きういふけり

とまけりしうめをけりし
けつらまけりし貫いしうめを
まけりしうめをけりし
なけりしうめをけりし
の殿うめをけりし
はと人のうめをけりし
なけりしうめをけりし
まけりしうめをけりし
いいたしむのうめをけりし
まけりしうめをけりし

